

平成 22 年度

岡山県後期高齢者医療広域連合
一般会計
特別会計 歳入歳出決算審査意見書

岡山県後期高齢者医療広域連合監査委員

岡 広 監 第 8 号
平成 23 年 6 月 30 日

岡山県後期高齢者医療広域連合長 高 木 直 矢 様

岡山県後期高齢者医療広域連合監査委員 池 上 進

岡山県後期高齢者医療広域連合監査委員 道 上 正 寿

平成 22 年度岡山県後期高齢者医療広域連合各会計歳入歳出決算審査意見
について

地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 292 条において準用する同法第 233 条第 2 項の規定により審査に付された平成 22 年度岡山県後期高齢者医療広域連合各会計歳入歳出決算及び証書類その他関係書類を審査した結果、別紙のとおりその意見を提出する。

目 次

各会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象	1
第2 審査の期日	1
第3 審査の方法	1
第4 審査の結果	1
1 決算の総括	2
(1) 決算規模	2
(2) 決算収支	3
2 一般会計	4
(1) 歳入	5
(2) 歳出	8
3 後期高齢者医療特別会計	11
(1) 歳入	12
(2) 歳出	16
4 財産に関する調書	19
5 むすび	20

平成22年度岡山県後期高齢者医療広域連合各会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

平成22年度岡山県後期高齢者医療広域連合一般会計歳入歳出決算

平成22年度岡山県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
(決算附属書類)

平成22年度各会計歳入歳出決算事項別明細書

平成22年度各会計実質収支に関する調書

平成22年度財産に関する調書

第2 審査の期日

平成23年6月30日

第3 審査の方法

審査に当たっては、平成22年度岡山県後期高齢者医療広域連合各会計歳入歳出決算書及び証書類並びに歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書が関係法令に適合して調製されているかどうかを確認し、これらの計数を会計管理者所管の関係諸帳簿及び証拠書類と照合することにより実施した。

また、予算の執行状況等については、これらの資料のほか、例月出納検査及び定期監査の結果も考慮に入れながら、必要に応じ関係職員からの説明を聴取し、その適否について審査した。

第4 審査の結果

審査に付された各会計歳入歳出決算書等は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、計数は関係諸帳簿と符合し正確であると認めた。

また、予算の執行については、要望及び検討事項はあるが、おおむね適正であると認めた。

なお、各会計の決算状況及びこれらに対する審査意見は、次のとおりである。

1 決算の総括

(1) 決算規模

一般会計及び特別会計の決算額は

歳入	2,241億4,493万4,731円	(予算現額に対する収入歩合	100.06%)
一般会計	6,767万9,028円	(同)	100.00%)
特別会計	2,240億7,725万5,703円	(同)	100.06%)
歳出	2,239億7,168万7,936円	(予算現額に対する執行率	99.98%)
一般会計	6,595万3,938円	(同)	97.45%)
特別会計	2,239億573万3,998円	(同)	99.98%)
歳入歳出差引額	1億7,324万6,795円		
一般会計	172万5,090円		
特別会計	1億7,152万1,705円		

となっている。

次に、決算規模の推移は、次表のとおりである。

決算規模の推移

年度	歳入		歳出	
	決算額	対前年度増、減(△)額	決算額	対前年度増、減(△)額
20	186,715,381,563円	185,473,563,743円	186,631,980,663円	185,399,424,051円
21	216,860,791,440円	30,145,409,877円	216,617,332,185円	29,985,351,522円
22	224,144,934,731円	7,284,143,291円	223,971,687,936円	7,354,355,751円

(2) 決算収支

本年度決算収支の状況は次表のとおりで、一般会計及び特別会計の総額では、歳入歳出差引額1億7,324万6,795円の余剰金が生じており、このうち翌年度へ繰り越すべき財源としての額は103万4,250円であるため、実質収支は1億7,221万2,545円の黒字決算となっている。

また、単年度収支では7,035万1,060円の赤字となっている。

決算収支の推移

区 分		22年度	21年度	20年度
歳入総額 A	一般会計	円 67,679,028	円 69,395,988	円 187,239,736
	特別会計	224,077,255,703	216,791,395,452	186,528,141,827
	計	224,144,934,731	216,860,791,440	186,715,381,563
歳出総額 B	一般会計	65,953,938	67,210,988	184,147,848
	特別会計	223,905,733,998	216,550,121,197	186,447,832,815
	計	223,971,687,936	216,617,332,185	186,631,980,663
歳入歳出差引額 (A-B) C	一般会計	1,725,090	2,185,000	3,091,888
	特別会計	171,521,705	241,274,255	80,309,012
	計	173,246,795	243,459,255	83,400,900
翌年度へ繰り 越すべき財源 (既収入財源) D	一般会計	0	0	0
	特別会計	1,034,250	895,650	0
	計	1,034,250	895,650	0
実質収支 (C-D) E	一般会計	1,725,090	2,185,000	3,091,888
	特別会計	170,487,455	240,378,605	80,309,012
	計	172,212,545	242,563,605	83,400,900
単年度収支 E-前年度のE	一般会計	Δ459,910	Δ906,888	Δ6,169,320
	特別会計	Δ69,891,150	160,069,593	80,309,012
	計	Δ70,351,060	159,162,705	74,139,692

2 一般会計

一般会計の決算額は、歳入 6,767 万 9,028 円(予算現額に対する収入歩合 100.00%)、歳出 6,595 万 3,938 円(予算現額に対する執行率 97.45%)、歳入歳出差引額 172 万 5,090 円となっている。

次に、決算規模の推移は、次表のとおりである。

一般会計決算規模の推移

年度	歳 入		歳 出	
	決 算 額	対前年度 増、減(△)額	決 算 額	対前年度 増、減(△)額
21	69,395,988円	△117,843,748円	67,210,988円	△116,936,860円
22	67,679,028円	△1,716,960円	65,953,938円	△1,257,050円

本年度決算収支の状況は次表のとおりで、歳入歳出差引額 172 万 5,090 円の余剰金を生じており、このうち翌年度へ繰り越すべき財源としての額は含まれていないので、実質収支として同額の黒字決算となっている。

また、単年度収支では 45 万 9,910 円の赤字となっている。

一般会計決算収支の推移

区 分	22年度	21年度
歳入総額 A	67,679,028円	69,395,988円
歳出総額 B	65,953,938円	67,210,988円
歳入歳出差引額 (A-B) C	1,725,090円	2,185,000円
翌年度へ繰り 越すべき財源 (既収入財源) D	0円	0円
実質収支 (C-D) E	1,725,090円	2,185,000円
単年度収支 E-前年度のE	△459,910円	△906,888円

(1) 歳 入

ア 決算状況

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

一般会計歳入決算状況

区 分		22年度 A	21年度 B	増、減(△) C(A-B)
予算現額		67,680,000円	69,395,000円	△1,715,000円
調定額		67,679,028円	69,395,988円	△1,716,960円
収入 済額	金額	67,679,028円	69,395,988円	△1,716,960円
	予算現額に対する 比率(収入歩合)	100.00%	100.00%	0.00%
	調定額に対する 比率(収納率)	100.00%	100.00%	0.00%
収入未済額		0円	0円	0円
不納欠損額		0円	0円	0円

収入済額は、6,767万9,028円で、前年度に比べ171万6,960円の減少となっている。

予算現額に対する収入歩合は100.00%で、前年度と同率となっている。

調定額に対する収納率は100.00%で、前年度と同率となっている。

収入未済額、不納欠損額はともに0円で、前年度と同額となっている。

イ 財源別収入状況

財源別収入状況は、次表のとおりである。

一般会計一般財源及び特定財源年度別比較表

財源別	区分	22年度		21年度		増、減(△)	
		決算額	構成比	決算額	構成比	金額	構成比
一般財源	分担金及び 負担金	円 63,653,000	% 94.05	円 63,631,000	% 91.69	円 22,000	% 2.36
	繰越金	2,185,000	3.23	3,091,888	4.46	△906,888	△1.23
	諸収入	15,225	0.02	16,527	0.02	△1,302	0.00
	小計	65,853,225	97.30	66,739,415	96.17	△886,190	1.13
特定財源	国庫支出金	904,650	1.34	1,319,000	1.90	△414,350	△0.56
	県支出金	904,650	1.34	1,319,000	1.90	△414,350	△0.56
	財産収入	16,503	0.02	18,573	0.03	△2,070	△0.01
	小計	1,825,803	2.70	2,656,573	3.83	△830,770	△1.13
合	計	67,679,028	100.00	69,395,988	100.00	△1,716,960	0.00

一般財源は6,585万3,225円で、前年度に比べ88万6,190円の減少となっている。歳入総額に占める割合は97.30%で、前年度に比べ1.13ポイント増加している。

特定財源は182万5,803円で、前年度に比べ83万770円減少となっている。歳入総額に占める割合は2.70%となっている。

ウ 款別決算状況

款別の決算状況は、次のとおりである。

第1款 分担金及び負担金

収入済額は6,365万3,000円で、前年度に比べ2万2,000円の増加となっている。

予算現額6,365万3,000円に対し同額となっている。

事務費負担金が2万2,000円増加している。

項別状況

項	22年度			21年度			増、減(△)
	予算現額	収入済額		予算現額	収入済額		
		A	収入歩合		B	収入歩合	A - B
負担金	円 63,653,000	円 63,653,000	% 100.00	円 63,631,000	円 63,631,000	% 100.00	円 22,000

第2款 国庫支出金

収入済額は90万4,650円で、前年度と比べ41万4,350円の減少となっている。

予算現額90万5,000円に対し350円の減少となっている。

保険料不均一賦課国庫負担金が41万4,350円減少している。

項別状況

項	22年度			21年度			増、減(△)
	予算現額	収入済額		予算現額	収入済額		
		A	収入歩合		B	収入歩合	A - B
国庫負担金	円 905,000	円 904,650	% 99.96	円 1,319,000	円 1,319,000	% 100.00	円 △414,350

第3款 県支出金

収入済額は90万4,650円で、前年度に比べ41万4,350円の減少となっている。

予算現額90万5,000円に対し350円の減少となっている。

保険料不均一賦課県負担金が41万4,350円減少している。

項別状況

項	22年度			21年度			増、減(△)
	予算現額	収入済額		予算現額	収入済額		
		A	収入歩合		B	収入歩合	A - B
県負担金	円 905,000	円 904,650	% 99.96	円 1,319,000	円 1,319,000	% 100.00	円 △414,350

第4款 財産収入

収入済額は1万6,503円で、前年度に比べ2,070円の減少となっている。

予算現額1万7,000円に対し497円の減少となっている。

財政調整基金利子が2,070円減少している。

項別状況

項	22年度			21年度			増、減(△)
	予算現額	収入済額		予算現額	収入済額		
		A	収入歩合		B	収入歩合	A-B
財産運用収入	円 17,000	円 16,503	% 97.08	円 19,000	円 18,573	% 97.75	円 △2,070

第5款 繰越金

収入済額は218万5,000円で、前年度に比べ90万6,888円の減少となっている。

予算現額218万5,000円に対し同額となっている。

前年度繰越金が90万6,888円減少している。

項別状況

項	22年度			21年度			増、減(△)
	予算現額	収入済額		予算現額	収入済額		
		A	収入歩合		B	収入歩合	A-B
繰越金	円 2,185,000	円 2,185,000	% 100.00	円 3,091,000	円 3,091,888	% 100.03	円 △906,888

第6款 諸収入

収入済額は1万5,225円で、前年度に比べ1,302円の減少となっている。

予算現額1万5,000円に対し225円の増加となっている。

預金利子の収入済額は7,019円で、前年度に比べ8,418円の減少となっている。

雑入の収入済額は8,206円で、前年度に比べ7,116円の増加となっている。

項別状況

項	22年度			21年度			増、減(△)
	予算現額	収入済額		予算現額	収入済額		
		A	収入歩合		B	収入歩合	A-B
預金利子	円 7,000	円 7,019	% 100.27	円 15,000	円 15,437	% 102.91	円 △8,418
雑入	8,000	8,206	102.58	1,000	1,090	109.00	7,116
計	15,000	15,225	101.50	16,000	16,527	103.29	△1,302

(2) 歳 出

ア 決算状況

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

一般会計歳出決算状況

区 分	22年度 A	21年度 B	増、減(△) C(A-B)
予算現額	67,680,000円	69,395,000円	△1,715,000円
支出済額	65,953,938円	67,210,988円	△1,257,050円
執行率	97.45%	96.85%	0.60%
翌年度繰越額	継続費通次繰越	0円	0円
	繰越明許費	0円	0円
	事故繰越し	0円	0円
	計	0円	0円
	予算現額に対する比率	0.00%	0.00%
不用額	1,726,062円	2,184,012円	△457,950円

支出済額は6,595万3,938円で、前年度に比べ125万7,050円の減少となっている。

予算現額に対する執行率は97.45%となっている。

翌年度繰越額は0円である。

また、不用額は172万6,062円で、前年度に比べ45万7,950円の減少となっている。

不用額の主なものは、職員手当等、役務費、負担金補助及び交付金で、経費の縮減などによるものである。

イ 用途別決算状況

歳出決算額を「人件費」及び「物件費その他の経費」に分類すると、人件費は94万4,313円で、前年度に比べ3万3,575円の減少となっており、歳出総額に占める割合は1.43%である。

物件費その他の経費は6,500万9,625円で、前年度に比べ122万3,475円の減少となっており、歳出総額に占める割合は98.57%である。

一般会計用途別決算状況

年度	人 件 費		物件費その他の経費	
	金 額	構成比	金 額	構成比
21	977,888円	1.45%	66,233,100円	98.55%
22	944,313円	1.43%	65,009,625円	98.57%

第3款 民生費

支出済額は180万9,300円で、前年度に比べ82万8,700円の減少となっている。

予算現額181万円に対する執行率は99.96%である。

保険料不均一賦課繰出金が82万8,700円減少している。

項別状況

項	22年度					21年度 支出済額 B	増、減(△) A-B
	予算現額	支出済額 A	執行率	翌年度 繰越額	不用額		
社会福祉費	円 1,810,000	円 1,809,300	% 99.96	円 0	円 700	円 2,638,000	円 △828,700

第4款 予備費

支出済額は0円で、前年度と同額となっている。

項別状況

項	22年度					21年度 支出済額 B	増、減(△) A-B
	予算現額	支出済額 A	執行率	翌年度 繰越額	不用額		
予備費	円 500,000	円 0	% —	円 0	円 500,000	円 0	円 0

3 後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療特別会計の決算額は、歳入 2,240 億 7,725 万 5,703 円（予算現額に対する収入歩合 100.06%）、歳出 2,239 億 573 万 3,998 円（予算現額に対する執行率 99.98%）、歳入歳出差引額 1 億 7,152 万 1,705 円となっている。

次に、決算規模の推移は、次表のとおりである。

後期高齢者医療特別会計決算規模の推移

年度	歳 入		歳 出	
	決 算 額	対前年度 増、減(△)額	決 算 額	対前年度 増、減(△)額
21	216,791,395,452円	30,263,253,625円	216,550,121,197円	30,102,288,382円
22	224,077,255,703円	7,285,860,251円	223,905,733,998円	7,355,612,801円

本年度決算収支の状況は次表のとおりで、歳入歳出差引額 1 億 7,152 万 1,705 円の余剰金を生じており、このうち翌年度へ繰り越すべき財源としての額は 103 万 4,250 円であるため、実質収支は 1 億 7,048 万 7,455 円の黒字決算となっている。

また、単年度収支では 6,989 万 1,150 円の赤字となっている。

後期高齢者医療特別会計決算収支の推移

区 分	22年度	21年度
歳入総額 A	224,077,255,703円	216,791,395,452円
歳出総額 B	223,905,733,998円	216,550,121,197円
歳入歳出差引額 (A-B) C	171,521,705円	241,274,255円
翌年度へ繰り 越すべき財源 (既収入財源) D	1,034,250円	895,650円
実質収支 (C-D) E	170,487,455円	240,378,605円
単年度収支 E-前年度のE	△69,891,150円	160,069,593円

(1) 歳 入

ア 決算状況

歳入の決算状況は、次表のとおりである。

後期高齢者医療特別会計歳入決算状況

区 分		22年度 A	21年度 B	増、減(△) C(A-B)
予 算 現 額		223,951,795,650円	216,581,858,000円	7,369,937,650円
調 定 額		224,077,255,703円	216,791,395,452円	7,285,860,251円
収 入 済 額	金 額	224,077,255,703円	216,791,395,452円	7,285,860,251円
	予算現額に対する 比率(収入歩合)	100.06%	100.10%	△0.04%
	調定額に対する 比率(収納率)	100.00%	100.00%	0.00%
収 入 未 済 額		0円	0円	0円
不 納 欠 損 額		0円	0円	0円

収入済額は2,240億7,725万5,703円で、予算現額に対する収入歩合は100.06%で、調定額に対する収納率は100.00%となっている。

収入未済額は0円で、不納欠損額は0円となっている。

イ 款別決算状況

款別の決算状況は、次のとおりである。

款	予 算 現 額 A	収 入 済 額 B	収入歩合 $\frac{B}{A}$	予算現額に比し 増、減(△) B-A
	円	円	%	円
市 町 村 支 出 金	36,503,123,000	36,628,571,014	100.34	125,448,014
うち保険料等負担金	18,688,117,000	18,813,565,728	100.67	125,448,728
うち療養給付費負担金	17,292,377,000	17,292,376,286	100.00	△714
国 庫 支 出 金	72,827,850,000	72,827,851,571	100.00	1,571
うち療養給付費等負担金	51,717,339,000	51,717,339,903	100.00	903
うち高額医療費負担金	754,810,000	754,810,026	100.00	26
県 支 出 金	18,061,624,000	18,061,638,724	100.00	14,724
うち療養給付費等負担金	17,269,526,000	17,269,526,698	100.00	698
うち高額医療費負担金	754,810,000	754,810,026	100.00	26
支 払 基 金 交 付 金	91,063,598,000	91,063,598,000	100.00	0
特 別 高 額 医 療 費 共 同 事 業 交 付 金	38,097,000	38,097,240	100.00	240
財 産 収 入	12,222,000	12,220,463	99.99	△1,537
繰 入 金	4,967,093,000	4,967,090,300	100.00	△2,700
諸 収 入	236,914,000	236,914,136	100.00	136
繰 越 金	241,274,650	241,274,255	100.00	△395
計	223,951,795,650	224,077,255,703	100.06	125,460,053

収入済額は2,240億7,725万5,703円でこの主なものは市町村負担金、国庫負担金、県負担金、支払基金交付金である。予算現額に対する収入歩合は100.06%で予算現額に対する増収の主なものは保険料等負担金である。

保険料等負担金の内訳は次のとおりである。

保険料等負担金内訳の状況

年度	保険料	延滞金	基盤安定分	計
	円	円	円	円
21	14,312,608,989	2,642,760	3,806,323,547	18,121,575,296
22	14,843,780,574	2,955,200	3,966,829,954	18,813,565,728

保険料等負担金は188億1,356万5,728円で、前年度に比べ6億9,199万432円の増加となっている。

保険料収入と被保険者数の状況は次のとおりである。

保険料収入と被保険者数等の状況

年度	保険料収入 A	年間平均 被保険者数 B	1人当たり 保険料収入 $\frac{A}{B}$
	円	人	円
21	14,312,608,989	244,683	58,494
22	14,843,780,574	250,010	59,373

保険料収入は148億4,378万574円で、前年度に比べ5億3,117万1,585円の増加となっている。

年間平均被保険者数は25万10人で、前年度に比べ5,327人の増加となっている。

1人当たりの保険料収入は5万9,373円で、前年度に比べ879円の増加となっている。

保険料等負担金については、市町村が広域連合に納付すべき額を調定しているため調定額に対する収納率は100.00%となっている。保険料については、14、15ページの表のとおり市町村における調定額150億7,245万2,042円に対し、収納額は148億4,966万3,441円となっている。収納率については現年分が99.23%で前年度に比べ0.08ポイント上昇し、滞納繰越分が33.88%で前年度に比べ9.9ポイント下がって、合計では98.38%で前年度に比べ0.24ポイント下がっている。不納欠損額については3,398万9,700円となっている。広域連合の保険料収入と市町村における収納額が異なるのは、広域連合への納付が翌月以降となるため、会計年度のずれにより生じるものである。

保険料の収納率の向上は財政の健全化に極めて重要であり、不納欠損処分は被保険者の不公平感を生み出す要因でもあることから、市町村と連携を図りながら滞納者に対する徴収を図り、積極的に徴収事務に取り組むよう要望する。

また、収納額の中には還付未済額が1,992万4,401円含まれており、前年度に比べ314万299円減少している。引き続き還付事務については、早期に還付が行えるよう、市町村と連携を図りたい。

【参考】 各市町村保険料収納状況

市町村名		調定額 A	収納額 B	還付未済額 C	収入未済額 (A - (B - C))	収納率 (B - C) A	不納 欠損額
		円	円	円	円	%	円
岡 山 市	現 年 分	5,388,101,100	5,347,375,564	8,162,000	48,887,536	99.09	0
	滞 納 繰 越 分	85,550,248	28,565,711	88,250	57,072,787	33.28	18,974,500
	合 計	5,473,651,348	5,375,941,275	8,250,250	105,960,323	98.06	18,974,500
倉 敷 市	現 年 分	3,303,810,400	3,276,912,900	1,928,500	28,826,000	99.12	0
	滞 納 繰 越 分	50,063,730	15,162,460	48,100	34,949,370	30.19	8,393,450
	合 計	3,353,874,130	3,292,075,360	1,976,600	63,775,370	98.09	8,393,450
津 山 市	現 年 分	761,484,000	757,994,520	1,001,000	4,490,480	99.41	0
	滞 納 繰 越 分	7,424,004	2,252,045	2,100	5,174,059	30.30	0
	合 計	768,908,004	760,246,565	1,003,100	9,664,539	98.74	0
玉 野 市	現 年 分	664,180,800	660,966,500	644,600	3,858,900	99.41	0
	滞 納 繰 越 分	7,333,100	2,966,450	0	4,366,650	40.45	0
	合 計	671,513,900	663,932,950	644,600	8,225,550	98.77	0
笠 岡 市	現 年 分	466,126,000	463,522,551	588,851	3,192,300	99.31	0
	滞 納 繰 越 分	5,478,450	2,269,000	700	3,210,150	41.40	1,325,900
	合 計	471,604,450	465,791,551	589,551	6,402,450	98.64	1,325,900
井 原 市	現 年 分	344,959,600	344,091,300	11,400	879,700	99.74	0
	滞 納 繰 越 分	1,933,550	260,550	0	1,673,000	13.47	646,500
	合 計	346,893,150	344,351,850	11,400	2,552,700	99.26	646,500
総 社 市	現 年 分	473,516,800	470,607,700	1,368,500	4,277,600	99.09	0
	滞 納 繰 越 分	6,404,100	2,127,500	0	4,276,600	33.22	506,800
	合 計	479,920,900	472,735,200	1,368,500	8,554,200	98.21	506,800
高 梁 市	現 年 分	313,208,800	312,237,416	234,800	1,206,184	99.61	0
	滞 納 繰 越 分	1,535,933	897,400	0	638,533	58.42	124,200
	合 計	314,744,733	313,134,816	234,800	1,844,717	99.41	124,200
新 見 市	現 年 分	318,475,800	317,539,100	982,900	1,919,600	99.39	0
	滞 納 繰 越 分	1,001,500	202,200	0	799,300	20.18	0
	合 計	319,477,300	317,741,300	982,900	2,718,900	99.14	0
備 前 市	現 年 分	355,264,000	353,522,750	507,400	2,248,650	99.36	0
	滞 納 繰 越 分	5,377,150	3,088,621	0	2,288,529	57.43	431,700
	合 計	360,641,150	356,611,371	507,400	4,537,179	98.74	431,700
瀬 戸 内 市	現 年 分	289,591,800	289,328,400	897,000	1,160,400	99.59	0
	滞 納 繰 越 分	3,666,100	1,371,800	0	2,294,300	37.41	916,500
	合 計	293,257,900	290,700,200	897,000	3,454,700	98.82	916,500
赤 磐 市	現 年 分	323,774,300	322,517,500	723,700	1,980,500	99.38	0
	滞 納 繰 越 分	3,746,800	1,035,900	0	2,710,900	27.64	721,800
	合 計	327,521,100	323,553,400	723,700	4,691,400	98.56	721,800
真 庭 市	現 年 分	383,167,100	382,171,400	178,500	1,174,200	99.69	0
	滞 納 繰 越 分	2,240,022	923,000	0	1,317,022	41.20	110,500
	合 計	385,407,122	383,094,400	178,500	2,491,222	99.35	110,500
美 作 市	現 年 分	251,670,800	250,776,300	171,000	1,065,500	99.57	0
	滞 納 繰 越 分	1,517,420	619,060	400	898,760	40.77	0
	合 計	253,188,220	251,395,360	171,400	1,964,260	99.22	0
浅 口 市	現 年 分	307,716,900	305,988,850	375,300	2,103,350	99.31	0
	滞 納 繰 越 分	3,819,335	1,355,285	0	2,464,050	35.48	1,381,350
	合 計	311,536,235	307,344,135	375,300	4,567,400	98.53	1,381,350

市町村名		調定額 A	収納額 B	還付未済額 C	収入未済額 (A - (B - C))	収納率 (B - C) A	不納 欠損額
		円	円	円	円	%	円
和 気 町	現 年 分	140,108,200	139,998,700	904,700	1,014,200	99.27	0
	滞 納 繰 越 分	1,500,700	546,500	0	954,200	36.41	182,700
	合 計	141,608,900	140,545,200	904,700	1,968,400	98.60	182,700
早 島 町	現 年 分	96,280,800	94,671,700	37,600	1,646,700	98.28	0
	滞 納 繰 越 分	1,231,000	590,800	0	640,200	47.99	38,700
	合 計	97,511,800	95,262,500	37,600	2,286,900	97.65	38,700
里 庄 町	現 年 分	93,586,300	93,134,200	0	452,100	99.51	0
	滞 納 繰 越 分	701,900	230,700	0	471,200	32.86	212,500
	合 計	94,288,200	93,364,900	0	923,300	99.02	212,500
矢 掛 町	現 年 分	128,260,900	127,843,100	0	417,800	99.67	0
	滞 納 繰 越 分	681,600	173,250	0	508,350	25.41	22,600
	合 計	128,942,500	128,016,350	0	926,150	99.28	22,600
新 庄 村	現 年 分	6,300,600	6,300,600	0	0	100.00	0
	滞 納 繰 越 分	0	0	0	0		0
	合 計	6,300,600	6,300,600	0	0	100.00	0
鏡 野 町	現 年 分	95,546,100	94,669,300	0	876,800	99.08	0
	滞 納 繰 越 分	1,825,700	753,300	0	1,072,400	41.26	0
	合 計	97,371,800	95,422,600	0	1,949,200	97.99	0
勝 央 町	現 年 分	71,114,500	71,215,900	576,200	474,800	99.33	0
	滞 納 繰 越 分	751,600	187,000	0	564,600	24.88	0
	合 計	71,866,100	71,402,900	576,200	1,039,400	98.55	0
奈 義 町	現 年 分	40,142,700	40,035,700	0	107,000	99.73	0
	滞 納 繰 越 分	298,200	102,800	0	195,400	34.47	0
	合 計	40,440,900	40,138,500	0	302,400	99.25	0
西 栗 倉 村	現 年 分	9,867,000	9,867,000	0	0	100.00	0
	滞 納 繰 越 分	0	0	0	0		0
	合 計	9,867,000	9,867,000	0	0	100.00	0
久 米 南 町	現 年 分	41,507,800	41,504,100	0	3,700	99.99	0
	滞 納 繰 越 分	270,300	62,100	0	208,200	22.97	0
	合 計	41,778,100	41,566,200	0	211,900	99.49	0
美 咲 町	現 年 分	130,117,300	129,566,600	32,800	583,500	99.55	0
	滞 納 繰 越 分	714,500	324,058	0	390,442	45.35	0
	合 計	130,831,800	129,890,658	32,800	973,942	99.25	0
吉 備 中 央 町	現 年 分	78,723,300	78,793,100	451,200	381,400	99.51	0
	滞 納 繰 越 分	781,400	443,200	6,900	345,100	55.83	0
	合 計	79,504,700	79,236,300	458,100	726,500	99.08	0
合 計	現 年 分	14,876,603,700	14,783,152,751	19,777,951	113,228,900	99.23	0
	滞 納 繰 越 分	195,848,342	66,510,690	146,450	129,484,102	33.88	33,989,700
	合 計	15,072,452,042	14,849,663,441	19,924,401	242,713,002	98.38	33,989,700

(2) 歳 出

ア 決算状況

歳出の決算状況は、次表のとおりである。

後期高齢者医療特別会計歳出決算状況

区 分	22年度 A	21年度 B	増、減(△) C(A-B)	
予算現額	223,951,795,650円	216,581,858,000円	7,369,937,650円	
支出済額	223,905,733,998円	216,550,121,197円	7,355,612,801円	
執行率	99.98%	99.99%	△0.01%	
翌年度繰越額	継続費通次繰越	0円	0円	
	繰越明許費	1,034,250円	895,650円	138,600円
	事故繰越し	0円	0円	0円
	計	1,034,250円	895,650円	138,600円
	予算現額に対する比率	0.00%	0.00%	0.00%
不用額	45,027,402円	30,841,153円	14,186,249円	

支出済額は2,239億573万3,998円で、前年度に比べ73億5,561万2,801円の増加となっている。

予算現額に対する執行率は99.98%となっている。

翌年度繰越額は103万4,250円で、前年度に比べ13万8,600円の増加となっている。

また、不用額は4,502万7,402円で、前年度に比べ1,418万6,249円の増加となっている。

イ 款別決算状況

款別の決算状況は、次のとおりである。

款	予算現額 A	支出済額 B	執行率 $\frac{B}{A}$	翌年度繰越額 C	不用額 A-B-C
	円	円	%	円	円
総務費	535,110,650	521,587,039	97.47	1,034,250	12,489,361
保険給付費	217,095,394,000	217,095,124,511	100.00	0	269,489
県財政安定化基金 拠出金	159,390,000	159,389,986	100.00	0	14
特別高額医療費 共同事業拠出金	38,275,000	38,274,888	100.00	0	112
保健事業費	107,334,000	95,371,000	88.85	0	11,963,000
基金積立金	2,464,694,000	2,449,832,686	99.40	0	14,861,314
諸支出金	3,551,598,000	3,546,153,888	99.85	0	5,444,112
うち被保険者還付金	26,000,000	20,980,800	80.70	0	5,019,200
うち国庫負担金等償還金	3,525,098,000	3,525,097,888	100.00	0	112
予備費	0	0		0	0
計	223,951,795,650	223,905,733,998	99.98	1,034,250	45,027,402

支出総額は2,239億573万3,998円で、この主なものは総務管理費、療養諸費、高額療養諸費、その他医療給付費、基金積立金、償還金及び還付加算金である。

予算現額2,239億5,179万5,650円に対する執行率は99.98%である。

不用額の主なものは、総務費の職員手当等、役務費、保健事業費の負担金補助及び交付金、基金積立金の積立金、諸支出金の償還金利子及び割引料で、経費の縮減などによるものである。

保健事業については、被保険者の健康に対する意識づくりによる医療費適正化を図ることも重要であることから、健康診査の受診率のさらなる向上を目指すよう市町村との協力を引き続き要望する。

さらに、保険給付については、保険料滞納者に対する高額療養費の支給が、2,563万6,305円あった。この滞納者に対する給付費については、昨年度の決算審査での指摘の後、保険料滞納者に対する高額療養費の給付充当の業務が開始されているが、その活用は十分とは言い難い。引き続き市町村と連携を図り、その活用を検討されたい。

療養諸費の状況は次表のとおりである。

療養諸費の状況

年度	療養諸費額 A	前年度比	年間平均 被保険者数 B	療養諸費 件数 C	一人当たり の療養諸費 $\frac{A}{B}$	一人当たり の年間受診件数 $\frac{C}{B}$
	円	%	人	件	円	件
21	197,695,539,442	114.70	244,683	6,488,791	807,966	26.52
22	207,153,328,384	104.78	250,010	6,634,975	828,580	26.54

「療養諸費額」は審査支払手数料を控除した額。

高額療養諸費の状況は次表のとおりである。

高額療養諸費の状況

年度	高額療養諸費額 A	前年度比	年間平均 被保険者数 B	高額療養 諸費件数 C	一人当たり の高額療養諸費 $\frac{A}{B}$
	円	%	人	件	円
21	7,888,320,317	127.95	244,683	445,058	32,239
22	8,606,023,395	109.10	250,010	466,018	34,423

保健事業費の状況は次表のとおりである。

保健事業による健康診査の受診状況

年度	対象者数 A	受診件数 B	受診率 $\frac{B}{A}$	受診率の増減
	人	件	%	%
21	242,883	27,977	11.52	△ 1.00
22	247,507	26,344	10.64	△ 0.88

「対象者数」は各年度4月1日現在の被保険者数。

「受診件数」は個別健診、集団健診の合計件数。

【参考】各市町村健診受診者数の状況

市町村名	対象者数	集団健診			個別健診			受診者数 合計	受診率
		課税	非課税	小計	課税	非課税	小計		
	人	人	人	人	人	人	人	%	
岡山市	72,223	1	3	4	4,330	2,205	6,535	6,539	9.05
倉敷市	47,872	252	52	304	1,509	753	2,262	2,566	5.36
津山市	14,841	42	75	117	922	1,610	2,532	2,649	17.85
玉野市	9,552	52	21	73	835	492	1,327	1,400	14.66
笠岡市	9,096	406	221	627	22	13	35	662	7.28
井原市	7,971	567	259	826	168	101	269	1,095	13.74
総社市	7,986	0	0	0	229	0	229	229	2.87
高梁市	7,758	241	155	396	19	25	44	440	5.67
新見市	7,380	827	343	1,170	283	129	412	1,582	21.44
備前市	6,191	16	7	23	682	323	1,005	1,028	16.60
瀬戸内市	5,584	96	56	152	31	31	62	214	3.83
赤磐市	5,877	183	52	235	0	0	0	235	4.00
真庭市	10,152	0	0	0	1,479	629	2,108	2,108	20.76
美作市	6,783	844	534	1,378	0	0	0	1,378	20.32
浅口市	5,591	137	24	161	40	16	56	217	3.88
和気町	2,746	11	7	18	132	48	180	198	7.21
早島町	1,354	67	19	86	7	5	12	98	7.24
里庄町	1,416	228	63	291	0	0	0	291	20.55
矢掛町	2,956	165	40	205	0	0	0	205	6.94
新庄村	268	17	16	33	0	6	6	39	14.55
鏡野町	2,925	314	189	503	127	90	217	720	24.62
勝央町	1,792	104	166	270	0	0	0	270	15.07
奈義町	1,130	186	88	274	0	0	0	274	24.25
西粟倉村	364	122	60	182	0	0	0	182	50.00
久米南町	1,293	113	79	192	0	0	0	192	14.85
美咲町	3,402	462	290	752	0	0	0	752	22.10
吉備中央町	3,004	90	57	147	264	370	634	781	26.00
合計	247,507	5,543	2,876	8,419	11,079	6,846	17,925	26,344	10.64

4 財産に関する調書

平成22年度における財産の取得及び処分の異動状況は、次のとおりである。

(1) 公有財産

本年度末における公有財産はなく、本年度中の異動はない。

(2) 物品

本年度末における取得金額100万円以上の物品は3点で、本年度中の異動はない。

(3) 債権

本年度末における債権はなく、本年度中の異動はない。

(4) 基金

本年度末における基金は3基金57億5,560万8,766円で、前年度末より11億9,810万2,337円増加している。これは、岡山県後期高齢者医療広域連合財政調整基金が111万6,503円、岡山県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療制度臨時特例基金が3,408万8,737円、岡山県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療給付費準備基金が11億6,289万7,097円増加したためである。

基金名	前年度末 現在高	決算年度 中増減	決算年度末 現在高
岡山県後期高齢者医療広域連合 財政調整基金	21,621,884	1,116,503	22,738,387
岡山県後期高齢者医療広域連合 後期高齢者医療制度臨時特例基金	2,198,787,903	34,088,737	2,232,876,640
岡山県後期高齢者医療広域連合 後期高齢者医療給付費準備基金	2,337,096,642	1,162,897,097	3,499,993,739
「前年度末現在高」とは平成22年3月31日現在の数値。 「決算年度末現在高」とは平成23年3月31日現在の数値。			

5 むすび

平成22年度の決算審査の概要は以上のとおりである。

本年度の決算規模は一般会計、特別会計を合わせた総額で、歳入2,241億4,493万4,731円、歳出2,239億7,168万7,936円となり、前年度に比べ歳入は72億8,414万3,291円、歳出は73億5,435万5,751円それぞれ増加している。これは、保険給付費の伸びによるものがほとんどである。

これを決算収支でみると形式収支（歳入歳出差引額）は、一般会計172万5,090円、特別会計1億7,152万1,705円の黒字となっており、このうち翌年度へ繰り越すべき財源の額は、特別会計は103万4,250円のため、実質収支は一般会計172万5,090円、特別会計1億7,048万7,455円の黒字となっている。また、前年度実質収支を控除した単年度収支においては、一般会計45万9,910円、特別会計6,989万1,150円の赤字となっている。

歳入については、予算現額に対する歳入決算額の割合は、一般会計100.00%、特別会計100.06%となっている。また、調定額に対する割合は一般会計、特別会計ともに100.00%であり、いずれの会計にも収入未済額は生じていない。しかし、市町村においては保険料の収納率は98.38%となっており、収入未済額が生じている。

本年度より新たな保険料率となったが、現年度の収納率が0.08ポイント上昇していることは市町村の収納努力の結果である。財源の健全化と被保険者負担の公平のためにも、滞納者に対する給付充当の活用等、引き続き市町村と連携を図りながら一層努力されるよう要望する。

また、財産運用収入が前年度より減少している。より効率的な財産運用を行うことを要望する。

歳出については、前年度に比べ一般会計125万7,050円の減、特別会計73億5,561万2,801円の増となっている。一般会計については、その大部分が、管理的経費及び派遣職員の人件費負担金であり、減少した主なものは財政調整基金積立金及び保険料不均一賦課繰出金である。特別会計については、96.96%が保険給付費であり、昨年より101億6,513万9,678円増加している。

医療費は年々増加しており、このことは被保険者の負担増につながる事となる。医療費適正化のための施策として、本年度も昨年に引き続き、医療費通知の送付、ジェネリック医薬品についてのカードの配布等、被保険者への意識づけに努力されている。被保険者の医療に対する意識づけこそが、医療費適正化の第一であり、さらに啓発されることを望む。

あわせて、レセプト点検委託業務においては、不正な請求や請求ミスをなくすよう、より一層厳格な事務を行うよう指導されるとともに、保健事業については、健康診査の受診率のさらなる向上を目指し、市町村との協力を引き続き要望する。

以上の点に留意し、医療費の適正化を図られたい。

現在、国において低所得者に対する保険料軽減などの一時的な措置が講じられており、これら特別措置の有無により財政運営への影響が考えられることから、現政権が掲げる後期高齢者医療制度廃止までの期間について、引き続き措置を講じることと併せて、被保険

者の負担を増やさず安定した制度運営がなされるよう国庫財源の確保について、引き続き強く国へ要望を続けていただきたい。

そして、被保険者が安心して医療を受けられるよう今後とも努力されたい。